



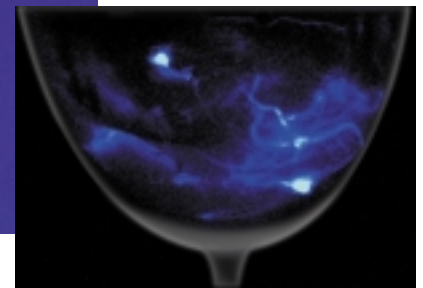
ウミホタル

山のホタルと海のホタル

ウミホタルは、沿岸の砂泥にすむ、2枚の硬い殻をもつ3ミリ程度の甲殻類である。

外敵などの刺激で、紫青色に（ルシフェリン・ルシフェラーゼ反応）鮮やかに、山のホタルのように光る。

（元香川大学学長 岡市 友利）
（当研究センター顧問）



光っているウミホタル

組織統合2年目を迎えて



当研究センターは、循環型社会に向けた取り組みや健康危機管理対策等の新たな行政課題に的確に対応することなどを目的として平成14年4月に環境研究センターと衛生研究所が統合され、新たな研究センターとして発足し、2年目を迎えることとなりました。

統合に際し、廃棄物・リサイクル部門や企画・情報及び自然環境担当が新設されるなど調査・研究体制の一層の充実強化が図られ、環境保健分野における地方の中核試験研究機関としての役割が大きくなってまいりました。

さて、近年輸入食品中の残留農薬、健康食品問題など食の安全性に関する課題が多く発生しています。また、今年5月には新型肺炎問題が突発し、新たな感染症問題への対応が必要となるなど、人の健康保護に関する調査研究や健康危機管理対策が一層重要となってきています。

一方、環境問題では、水質汚濁、大気汚染、騒音・振動・悪臭問題はもとより土壌汚染や廃棄物問題への対応が重要な課題となっていることからこれに関連する調査研究の重要性が一層増大してきています。特に、香川県が進めている豊島廃棄物処理事業に関連する試験検査等が急増するとともに廃棄物処理に伴い発生する熔融スラグの有効活用に関する調査研究が重要となってきています。

このような状況のもと、当研究センターは、水とみどりに恵まれた美しい郷土創りと、県民の健やかなからだ、さらに安全でうるおいのある暮らしを守ることを目標として、職員一同、一層努力してまいりますので、より一層のご指導、ご協力を頂きますようお願いいたします。

（環境保健研究センター 所長 藤田 淳二）

いよいよ始まる 廃棄物処理



昭和50年代後半から平成2年にかけて、豊島に投棄された67万トンの産業廃棄物（汚染土壌を含む）を処理するための「中間処理施設」が、直島に完成し、その性能試験が始まりました。

当研究センターでは、直島環境センター等と連携を図りながら、豊島産業廃棄物処理の円滑な推進を図るため、豊島における周辺大気及び沿岸環境調査、騒音・振動・悪臭調査、作業環境調査等に、また直島における排ガス調査等に総力をあげて取り組んでいます。

廃棄物中間処理施設の本格稼働がまもなく始まります。



廃棄物を掘削するバックホウ（豊島）



廃棄物中間処理施設（直島）



排ガス調査



豊稔池は香川県西部にあり、全国で唯一の石積アーチダム（総貯水量：約159万 m^3 ）として知られています。また、初夏に行われる「ユルヌキ」は、満濃池が有名ですが、ここでも田植えの季節を告げる風物詩として、毎年多くの見学者が訪れています。

豊稔池の水浄化事業

香川県では、水面設置の太陽光発電施設を利用した水生植物による水浄化実証事業を平成13年度から実施しています。

豊稔池に流入している柞田川の河川水の一部をヨシ、クレソン等を植栽した実験用水路に導き、植物*¹)による窒素・リン等の浄化能を調べています。

当研究センターでは、毎月、水生植物による浄化の効果を調査しています。



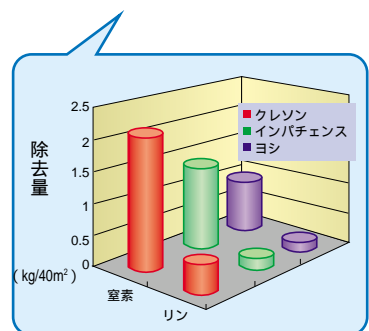
水生植物による水質浄化施設

浄化能力は、植物の種類、気象条件などで変動することから、施設の維持管理も含め、水質浄化の最適条件の検討を行っています。

*ヨシ、クレソン、ゼラニウム、インパチェンスなど

植物で水質浄化！

浄化能力は、クレソン・インパチェンスが高い！



夏に心配される
感染症

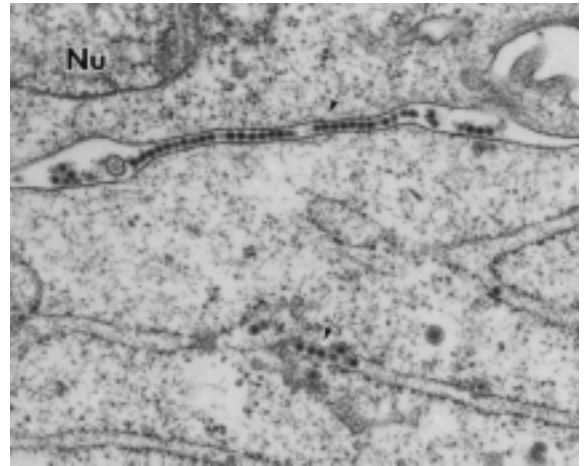
ウエストナイル熱／脳炎

1937年、アフリカで初めて分離されたウイルスで、日本脳炎と近縁であり、蚊を媒介して感染します。

1999年、それまで流行のなかったアメリカで患者が発生し、その後、各州へ拡大して世界の注目を集めています。

ほとんどのヒトは感染しても無症状に終わり、一部のヒトがウエストナイル熱になるとみられ、インフルエンザ様症状に始まり、経過は比較的軽症で短期間で回復します。しかし、これが重篤な状態と言われるウエストナイル脳炎となると、予後が心配されます。

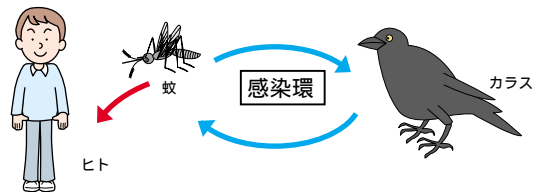
現在、国内感染、輸入症例のいずれの報告もありませんが、わが国とアメリカとのヒトや物の交流を考えると、ウイルスの侵入が懸念されます。



Vero細胞に感染したウエストナイルウイルス（矢印）
（写真は、国立感染症研究研 高崎博士の提供）



安全実験室(P3)でのカラス(脳)のウイルス検査



アメリカではヒトの流行以前にカラスなどが感染し、死亡する事例が多くみられました。

香川県でもカラスの異変監視が続けられ、原因不明の死亡カラスについて検査が行われています。

さ〜ず SARS

アジア地域を中心として流行しましたSARS（重症急性呼吸器症候群）は、コロナウイルスを原因とする感染症ですが、これまでのコロナウイルスとは大きく相違が見られることから、SARSコロナウイルスと名付けられました。

このウイルスは発熱、肺炎などの強い病原性と感染力を持つことから、感染症法で指定感染症になりました。

国内での感染事例はありませんが、アジア地域との頻繁な交流をみますとウイルスの侵入の可能性は否定できません。

香川県では「SARS行動計画」を作って対処しています。



搬送車とトランジットアイソレーター
（患者を乗せる寝台：外部より気圧が低く、ウイルスを閉じ込める構造）

食中毒にご注意を

O157などの食中毒対策の



3ポイント



ふせぐ
手荒いと台所は、清潔に

おさえる
できるだけ、低温に

ころす
煮る・ゆでる・いためる



環境ISOにトライ



3年前前から勉強していた環境ISO (ISO 14001)。いよいよ今年度から、県の出先機関としてはじめて認証取得に向けて、正式にスタートです。

当研究センターが、今後より一層、環境保全に貢献する機関となることを目指し、環境マネジメント計画を立案しています。職員で構成される委員会は、コンサルタント会社と協議を重ねています。また、全職員は、それぞれの分野で協議し、よりよい環境マネジメントシステムの構築につとめています。

認証取得は、今年度内の見込み。

「環境学習」は、今



平成13年度から、環境教育・学習を推進している「環保研・学習サポートボックス」では、「出前の環境講座」の申し込みがだんだん多くなってきています。

県環境森林部と共同で実施している「環境キャラバン隊」による環境教育・学習事業も好評です。小中学校で実施している「総合の学習の時間」に招かれるなど、学校での環境学習の取り組みは、一段と充実してきているようです。

今年度の環保研・学習サポートボックスの「施設見学」「出前の環境講座」などの実施目標は、一昨年、昨年の33件、43件の実施結果をもとに、目標を高くして50件にしています。

川にいる蛍は有名ですが海にも蛍がいたんです。その名もウミホタル。節足動物門甲殻綱ミオドコーバ目ウミホタル科。ミジンコと同じ仲間ですが、2枚の透明な殻に覆われています。大きさは雌の方がやや大きく3ミリ程度、外敵から身を守る時に頭部の発光腺から発光物質ルシフェリンを含む液を分泌しその液に発光酵素ルシフェラーゼが作用し青紫の神秘的な光を放ちます。海水の汚染がなく川の水の流入の少ない穏やかな内湾の砂の中に潜っていて夜になると砂の中から出てきてゴカイや魚の死骸を食べます。ウミホタルもまた海洋汚染のバロメーターなのです。来年、「第24回全国豊かな海づくり大会」が高松サンポートで開かれます。ウミホタルに出会えるかも。

表紙の写真 六車 満由美 撮影

かがわ環保研だより Vol.2 平成15年8月		
編集・発行 香川県環境保健研究センター		
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105		
TEL: 087-825-0400 FAX: 087-825-0408		
総務企画課	総務担当 企画企画情報担当	087-825-0400 825-0415
環境科学部門	水質担当	825-0401
	大気担当	825-0402
	常時監視担当 自然環境担当	825-0403 825-0401
廃棄物・リサイクル部門	廃棄物担当	825-0405
	資源化・リサイクル担当	825-0405
保健科学部門	微生物担当	825-0412
	生活科学担当	825-0413
	臨床科学担当	825-0414
E-メール: kanpoken@pref.kagawa.lg.jp		
E-メール: kagawa-kanpoken@nifty.ne.jp (環保研・学習サポートボックス)		
ホームページ: http://www.pref.kagawa.jp/kankyoe_center/index.htm		
印刷: (株)中央印刷所		

